

みんなの未来レポート

発行：未来の学校事業運営委員会「Mirai研」

topic 哲学対話を実施しました

昨年度から本校でも始まった“哲学対話”。これは、探究活動に必要不可欠な「問い」について学ぶための学習です。その有効性から、長野県中に広まってきており、多くの高校で取り入れられています。初めて聞いた人は堅苦しい印象をもつかもしれませんが、ゲーム感覚で「問い」や「対話」について学ぶことができ、非常に楽しいものです。今回も長野県立大学の馬場先生によって、有意義な学びをすることができました。その様子を紹介します。

2年生



【馬場先生より】

1年生の時に比べると、話すことに抵抗がなくなってきたように感じる。他者との関りも多く、成長を感じた。「問い」のレベルが上がってくるとより良くなる。

1年生



【馬場先生より】

非常に活発に話し、活動ができる生徒が多く楽しかった。日常に潜む「問い」から発展させていくのも大切。

生徒諸君の反応

- ・ グループで意見交換をしたら、自分では思いつかなかった意見がたくさん出てきたので、共有することは良いことだと思った。
- ・ 「学生のときに学ぶことはすべて理解できているか」という問いについてみんなで考え、そこから「習った知識はいつ、どのように使えるのか」という新たな問いを考えることができた。
- ・ 同じ絵をみているのに、5人全員が見え方が違った。他者はさまざまなものの見方をもっていることがわかった。
- ・ 「質問」ではなく、「問い」をたてることが重要で、「問い」をたてるためには、普段から興味のあることへの疑問を持つておくことが大切。

他者との対話を通して、新たな視点や考え方などのさまざまな出会いをすることができます。また、自分の内側に秘めておくだけでなく、それを外に発信することで自分の頭の中も整理されます。探究学習において大切になることをたくさん学べたことと思いますので、ぜひ活かしてってください。



～長野県飯田風越高等学校～

国際的な教育プログラムを研究する高校

